

小学校5年生 自然災害とともに生きる
第6時 ワークシート(B4サイズ)

どんな情報がある？

大雨や台風のときには、**気象警報**や**避難情報**などに注意し、安全に**避難**しましょう。

気象警報の種類

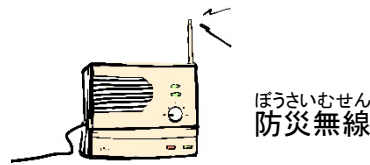
種類	大雨 (土砂災害・浸水害)	暴風	説明
特別警報 重大な災害の起こる恐れが著しく大きい	大雨特別警報 (土砂災害・浸水害)	暴風特別警報	ただちに命を守る行動をとる。 (避難所へ避難するか、外出が危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる)
警報 重大な災害の起こる恐れ	大雨警報 (土砂災害・浸水害)	暴風警報	・早めの自主避難、または市町村の かん告・指示による避難。 ・暴風警報については、安全な場所に退ひ。
注意報 災害の起こる恐れ	大雨注意報	暴風注意報	・非常持出品の点検。・避難場所の確認。 ・窓や雨戸などの家の外の点検 ・気象情報に気をつける。
その他の情報	土砂災害警戒情報	-	大雨による危険度が高まったとき発表され、 市町村の避難かん告発令や住民の自主避難の 参考となる防災情報。
	記録的短時間大雨情報	-	大雨警報が発表されている時に、数年に1回 程度発生する激しい短時間の大雨を観測、 または解析したことを発表する情報。

出典：気象庁

避難情報の種類

テレビで、「**はん濫注意情報**」
とは、避難の準備を始める合図です。
「はん濫注意情報」とは、避難の準備を始める合図です。
お年寄りや小さな子供は、避難するのに時間がかかるので、「はん濫注意情報」を合図に避難を始めても良いでしよう。

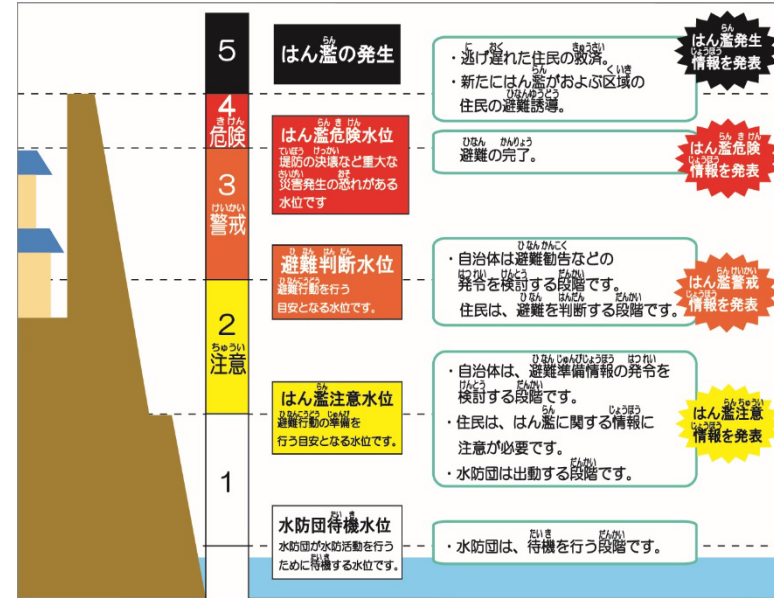
テレビで、「**はん濫警戒情報**」
とは、避難を始める合図です。
住んでいる市・町・村から、避難についての情報が、
広報車や無線、サイレンなどで伝えられます。避難
勧告が出なくても、危険を感じたら自分からすすんで
避難するようにしましょう。



テレビ・ラジオ・防災無線・インターネットなどから
情報を入手しましょう。

川の危険度レベルを知ろう

橋などには、水位の高さから洪水の危険度が判断できる表示があります。自ら危険度を判断できるようになりましょう。
また、川の水位は避難勧告等の発令の基準です。水位が上がってきたら、さつま町からの避難情報に注意しましょう。



川の危険度レベル表示



川の水位は、川内川河川事務所「早よ見やん川内川」(インターネット)でも見るることができます。

こう水が起こる雨量の目安を知ろう

テレビやラジオの天気予報では、雨の降る量(降水量)のことを、「mm(ミリ)」で表します(例「今日は、1時間に30mmの強い雨が降りました」)

1時間に10～20ミリの雨のとき、
天気予報では、「**やや強い雨**」と言います。
★このときのイメージは、ザーザーと降る感じです。
長時間降ったら注意が必要です。

1時間に30～50ミリの雨のとき、
天気予報では、「**激しい雨**」と言います。
★このときのイメージは、バケツをひっくり返したような感じです。
大きな災害の可能性があるので危険場所を避け、避難の準備！

1時間に50～80ミリの雨のとき、
天気予報では、「**非常に激しい雨**」と言います。
★このときのイメージは、ゴーゴーと降り続ける感じです。
大きな災害が起きます。

1時間に80ミリ以上の雨のとき、
天気予報では、「**猛烈な雨**」と言います。
★このときのイメージは、滝のように雨が降る感じです。
大きな災害が起きます。

どしゃさいがい 土砂災害の前兆を知ろう

がけくずれ



地すべり



どせきりゆう 土石流

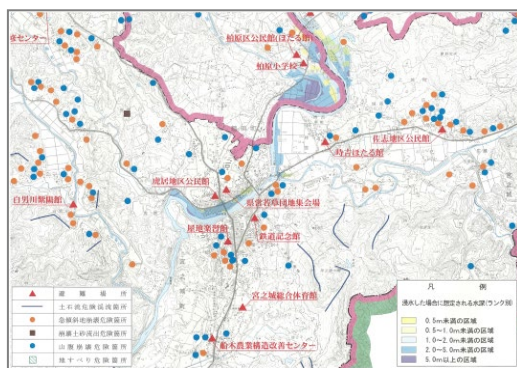


ハザードマップを確認しよう

自分の住んでいるまちのハザードマップで避難場所、避難ルートを確認しておきましょう。



こう水ハザードマップ(虎居・宮之城屋地)

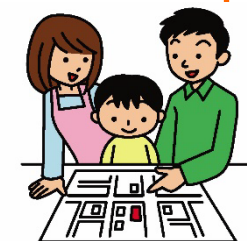


ぼうさい防災マップ(さつま町)

ひ難について家族で話し合おう

いつも家族で避難について話し合っておくと、いざという時にスムーズに避難ができます。

- ・避難場所や家族が集まる場所を話し合おう。
- ・危ない場所や道を防災マップで確認しておこう。
- ・災害時に家族と連絡をとる方法を話し合おう。
- ・避難道具がどこにあるのか確認しておこう。
- ・避難道具の中身を話し合おう。



避難するときに持ち出すものを準備しよう

ひじょうもちだしぶくろ <非常持出袋の中身の例>

災害が起こったら必要なものをすぐに持ち出せるように「非常持出袋」を準備しておこう。



- みず (Water bottles)
- 懐中電灯 (Flashlight)
- くすり (Medicine)
- ひも・ロープ (Rope)
- ラジオ (Radio)
- 印鑑・通帳・財布 (Seal, Passbook, Wallet)
- 食料・缶詰など (Food, Canned goods)
- 衣類 (Clothing)
- おむつ・生理用品 (Diapers, Hygiene products)

水害のときに、安全に避難する方法を知っておこう

深いところは歩かないようにしましょう。歩ける深さは足のひざぐらいの深さです。それより深いところは危険です。ながれが速いところは、ひざより浅くても歩みにくくなり、とても危険です。水の中を歩くときは、つえやぼうなどを持って歩きましょう。水の中には何があるかわかりません。つえなどで確認しながら歩いて行きましょう。



避難するときは運動靴で！

長ぐつは、深いところに行くと、中に水が入ってきて歩けなくなります。にげるときは、運動靴でにげましょう。裸足はあぶないのでやめましょう！



必ず2人以上で避難しましょう。

子供やお年寄り、大人と離れないようにロープなどで体をつないで避難しましょう。近くに、お年寄りなどが住んでいる場合は、避難するときに声をかけてあげましょう。